

突然ですが、アメリカバージニア州リッチモンドのホーリウッドのお墓に建てられている碑文を読みます。(碑文読み上げ)

何を言っているのか、分からなかったでしょう。これは「文語」と言って、昔風の書き言葉で書いてあるので、そう感じるのかもしれない。簡単に言うと、こんな内容の文章です。

「日本で五十年の間キリスト教の伝道をし、日本聖公会の基礎を築いたウイリアムズ監督は、たぐいまれな心清らかな方でした。キリスト教を一所懸命に伝え、自分の働きなどおくびにも出さず、誰にも知らせないで、ふらりと米国に戻られ、故郷で葬られました。心広くあたたかなお顔やお姿が、ありありと日々新たに思い起こされます。」と、主教を懐かしく慕う、大正期の聖公会の方々が、感謝を込めて石に刻んだようです。

もう、誰のことについて書いてあるか分かりましたね。碑文に「ウイリアムズ」とありますが、今は「ウイリアムズ」と言います。「監督」は「主教」のことです。そう、ウイリアムズ主教のお墓にある碑文です。なぜ読んだかという、先週の金曜日、つまり十二月二日は、ウイリアムズ主教の亡くなった日。正確に言うと、一九一〇年の十二月二日の午前二時に、八十一歳でなくなりました。

立教学院では毎年十二月二日にウイリアムズ主教記念礼拝を行っています。私はちょうど奈良に研修に行っていたので、今年の礼拝には、残念ながら参加できませんでした。その代わりといつては何ですが、君たちが持っている、立教小学校の第五代の校長、伊藤先生がお書きになった『ウイリアムズ物語』や立教大学の初代学長(今は総長と呼びます。)元田作之進先生のお書きになった『日本基督教の黎明』というこの、分厚い本を読み直してみました。この分厚い本は先ほどの碑文のように「文語」で書かれているので、とても読みにくいのですが、内容が面白いので、ついつい読み進んでしまいました。

たとえば、「立教学院」の一人の生徒に「ワル」がいて、何度注意しても二階の窓から唾を吐くのをやめない。しかもこの生徒、キリスト教に反対し、弁論が巧みなので誰も手に負えない生徒だったようです。ある時、吐いた唾がウイリアムズ主教の帽子の上に！主教は上を見上げようともせず、それをぬぐいながら部屋に入られたのだそうです。さすがに「まずい！」と、思ったのでしよう。この生徒、主教の部屋に恐る恐る謝りに行くと、何事もなかったかのように「人が通りますから気をつけなさい。」と、ただひと言。主教の様子にそれ以後この生徒は一変し、熱心なキリスト者になったのだとか。

神学校の寄宿舎ではネズミが大暴れしていたようで、ある学生が白ネズミを放てば、ネズミの群れは退散するはずだと聞いたことがあるというので、ウイリアムズ主教に許しを得た所、主教はほほ笑みながら許可したようです。翌日、主教は密かにコックさんにネズミを一匹捕まえるようお願いし、コックさんがネズミを捕まえてくると、さらに胡粉という白い粉をネズミの体に塗るようお願いし、白くなったネズミを寄宿舎内に放させたのだそうです。荒れ狂った白ネズミは四方八方を駆け回り、白ネズミの策を言い出した学生の部屋にも突入。白い粉をすべての物になすりつけながら大暴れ。学生は助けを求め、しきりに叫んだところ、仲間の学生が駆けつけましたが、「こりやだめだ。」ということでした。みんなで大笑いをしたのだそうです。

この大学は、誰それが作ったと、はっきり分かっている大学もあります。大学を作るくらいの方ですから有名になるのも当然です。とても立派なことだと思います。

でも私は、ウイリアムズ主教のように目立つことを嫌い、自分の業績を少しも自慢しない謙遜な態度を深く尊敬し、心の底から誇りに思っています。

イエス様の教えに倣い、黙々と歩まれたウイリアムズ主教。私たちはその主教のお建てになった学校の人間であるということをしつかりと自覚して、自分を高めて行きたいものです。(立教小学校校長 田代 正行)